

平成 29 年度

自己点検・評価報告書

学校法人 南 京 都 学 園

京 都 動 物 専 門 学 校

自己点検・評価委員会

平成 30 年 5 月 1 日

『学園の教育理念』

「人間の能力は生まれつきのものでなく、
その人の努力によって開発され、無限に伸ばされる」

『学園訓』

「愛・信・敬」

1. 他人を愛し、他人を信頼し、他人を尊敬する、人間に私はなりたい。
2. 他人から愛され、他人から信頼され、他人から尊敬される人間に私はなりたい。

『学園の教育目的』

愛情と信頼と尊敬に充ちた教育を通じて、個性を伸ばし、能力を開発し、自立と向上心ならびに互助協力の精神を培わせ、徳・体・智の調和のとれた人格の形成を図り、平和で民主的な国家及び社会に貢献できる人間を育成することを目指している。

『京都動物専門学校』の教育目的』

SKILL&LOVE『確かな技術と人や動物に対する愛情』また『「好き」だけじゃできない…だから、京都動物へ。』を合言葉に動物系とビジネス系の二本柱を教育の中心に置き、これからの動物業界の未来を担う、人材の育成を目指している。今までに無い、新しい動物系の学校としてのあり方を常に創造し挑戦していく。

【評価の判定】	適切 4	ほぼ適切 3	やや不適切 2	不適切 1
---------	------	--------	---------	-------

[1] 教育理念・目標

評価項目	評価
・生徒等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。	4
・教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか。	4
・学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか。	4
・各修業期間における教育目的・目標及び教育計画が文書化され、提示されているか。	4

(課題)

- ・生徒には、日々の教育活動の中での周知徹底を図り継続する。
- ・全教職員へ周知徹底を強化し、「建学の精神」を具現化する。

(今後の改善方策)

- ・「教育理念、校訓」の掲示で教職員、生徒、志願者及び保護者、企業などに対し理解を得る。
- ・教職員は「教育理念、校訓、教育目的」の唱和を実施。

(特記事項)

- ・教育理念・学園訓・教育の目的は明確に定められ、「学生便覧」により生徒達に周知徹底が図られている。
- ・学園全体会議において教職員に対し「建学の精神（教育理念・学園訓・教育の目的）」の周知徹底を行っている。

- ・学校案内・募集要項・HP等で外部に広く公表し、本学園が教育基本法、学校教育法及び専修学校設置基準に従った学校教育を行っていることを提示している。

[2] 学校運営

評価項目	評価
・運営方針は定められているか。	4
・事業計画は定められているか。	4
・職務分掌による組織の運営が機能的に働いているか。	4
・意思決定システムによる学校運営がなされているか。	4
・施設管理体制が整っているか。	3
・安全管理体制は整っているか。	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3
・本校の事業内容を、第三者から評価しているか。	3
・職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための組織的な教育を行っているか。	4

(課題)

- ・学校関係者評価委員会の意見についての対応。
- ・職業実践専門課程の要件をより充実させ、専攻分野に関する実践的かつ専門的な職業教育を実施する。
- ・施設設備の経年劣化への対応。

(今後の改善方策)

- ・学校関係者評価委員会で指摘された事項について、即対応が困難な案件に対しては、まず対応できることから手をつける。
- ・職業実践専門課程において、動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成できるよう、企業及び業界団体と連携を図り、専門的な教育を行える環境を整える。
- ・安全及び学習環境の改善を最優先に、施設設備の改修を実施する。

(特記事項)

- ・本学園において「5か年、中・長期計画」を立て、着々とその計画が実現するよう努力している。
- ・社会の動向及び環境の変化等に即対応・適用できるよう事業計画を立て、一人ひとりの能力を把握し個々に見合った学習方法を取り入れ、技術を身につけ、実践的に活躍できる人材の育成を図り、平和で民主的な国家及び社会に貢献できる人間の育成を行っている。
- ・専修学校専門課程における教育目的・目標に従い運営方針が定められ、方針に則り業務を執行している。
- ・職務分掌表を作成し、学校組織が機能的に働くよう実行している。
- ・毎月職員会議および学科会議を開催し、教職員間の意思疎通を図っている。
- ・防犯も意識した施設管理の組織化と、災害等の非常時においては災害対策委員を中心に、学生の安全を最優先に対応する。
- ・教員一人に1台のコンピュータを設置して業務の効率化を図っている。また、個人情報等漏洩が無いよう保護、教員の指導の徹底をしている。
- ・職業実践専門課程の認定を受け、専門家の意見を吸収し、生徒へ還元できるよう教育を行っている。
- ・学校関係者評価委員会を設置し、第三者から多くの意見を頂き、改善している。

[3] 教育活動

[カリキュラム・成績の評価]

評価項目	評価
・求められる人材像は、各学科に対応する人材ニーズに向け正しく方向付けられているか。	4
・カリキュラムは、業界の外部関係者を参入させ、社会のニーズに合致した内容が設定されているか。	4
・カリキュラムは、体系的に編成されているか。	3
・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けがなされているか。	4
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4
・人材育成のための要件を備えた教員を確保しているか。	3
・資格取得の指導体制は整っているか。	4
・生涯学習について積極的に取り組んでいるか。	4

(課題)

[トリマーコース]

- ・より実践的な授業及び外部講師によるセミナー・講習等を実施。
- ・個々のレベル差が顕著になる為、個々に応じた指導・フォローを行う。
- ・資格取得体制（授業構成等）の強化と確立。
- ・全国トリミングコンテスト入賞レベルへの育成。

[看護師コース]

- ・実習に必要な備品等を随時購入する。
- ・カリキュラム履修で「動物看護師統一認定試験」に対応できる指導を行う。
- ・動物看護師統一認定試験の合格率 100%の目標及び高平均点の維持。

[教育課程編成委員会]

- ・委員会メンバーの人選について。
- ・委員の意見・提案を如何に反映させていくか。

(今後の改善方策)

[トリマーコース]

- ・日本動物専門学校協会（NAVA）認定トリマーライセンス、ペットスタイリスト国際協会（PSIA）トリマーライセンス、自校トリマーライセンスへ意識向上を促し取得率を上げる。
- ・個々の生徒の課題及び成長過程をしっかりと認識し指導を行う。

[看護師コース]

- ・看護師コースの備品等については、適時対応していく。
- ・試験及び資格取得に対しての計画を明確にし、生徒に意識付けを行う。
- ・試験対策を実施する。

[教育課程編成委員会]

- ・外部委員の人選を再考し意見をお聞きする。
- ・外部委員の提案を考慮しカリキュラム編成を行う。

(特記事項)

- ・担当教科ごとに年間のカリキュラムを作成し詳細なシラバスを作成している。また、カリキュラム及びシラバスを全教職員が共有することで不足を補い、生徒がより良い知識を得られるようその都度確認している。
- ・カリキュラムの作成に当たり「教育課程編成委員会」を設置し、外部関係者の意見を取り入れ、本校での学

習後、即社会に貢献できる体制を整えている。

- ・カリキュラムは各学科の目標達成に向け、教務を中心として現場の教師の意見及び全教職員の意見を取り入れ、必要かつ十分な体制を整えている。
- ・成績の評価および単位認定の基準は、本校「学則」「便覧」に定められており、それに従い実務を実行している。また、生徒に対しても「生徒便覧」を配布し、公表している。
- ・本校に入学した以上は、すべての生徒がより多くの資格を取得し卒業できるよう、教員による指導体制を整えている。
- ・教育課程編成委員会を開催し、様々な意見を出し合い、有意義な話し合いができた。
- ・トリマーコース、動物看護師コースの教育課程の編成を実施する。

[授業の評価]

評価項目	評価
・自己点検・評価を行うため、体制の組織化がされているか。	4
・生徒によるアンケート等による授業評価・担任評価を定期的に行っているか。	4
・授業評価・担任評価の結果に基づく教員面接を実施しているか。	3
・授業評価・担任評価の結果に基づく教員報告書・改善計画書等が作成されているか。	3
・授業改善のための組織的取り組みが行われているか。	4

(課題)

- ・自己点検・評価の有効活用。
- ・授業評価・担任評価の有効活用。

(今後の改善方策)

- ・「自己点検・評価」を行い、その後「課題と対策」を行っている。より有効にするため、全教職員へ課題共有を徹底する。
- ・授業評価・担任評価の結果に対して、対策・改善策を明文化する。

(特記事項)

- ・「自己点検・評価委員会」を設置している。
- ・授業の評価及び教員評価を、前期および後期の授業最終日にアンケートを取り実行している。その結果を取りまとめ、各科目担当教員および担任に配布し、もし不適切な部分がみられるような場合には、改善を促し、指導をしている。

[学校行事]

評価項目	評価
・定期的に校外学習を行い、動物業界の見聞を広めているか。	4
・定期的に生徒同士・生徒と教員のコミュニケーション能力を養っているか。	4
・定期的に生徒主体による、自立と向上心を育て、社会地域へ貢献できる行事を行っているか。	4
・定期的に海外における動物業界の知識を生徒に取り入れているか。	4

(課題)

- ・レクリエーションは、パターン化する可能性が高いため、内容の充実を目指す。
- ・新たな校外学習受け入れ施設の探索。
- ・海外研修旅行は、費用・費用準備方法・行き先・研修内容等を検討し、全員参加を目指す。

また常に次年度の計画なので、早めの対策が必要である。

- ・ぐーDOG祭は、入場者数を増やしていくためにも、内容の充実、告知方法など検討の必要がある。

(今後の改善方策)

- ・それぞれの学校行事の目的を明確に生徒に伝え、より意義・意味のある行事にしていく。
- ・レクリエーションを行うだけでなく、そこでしかできない貴重な経験を通じ生徒に教え、学びの場とする。
- ・校外学習についても、パターン化を避けるために新たな受け入れ施設を探す。
- ・海外研修旅行は、費用・費用準備方法・行き先・研修内容等を検討のため、複数の業者に依頼し検討する。
- ・ぐーDOG祭の目的は「感謝祭」であることを認識させ、生徒主体で実施するようにし、来校者数を増やすために、モデル犬会員様への案内チラシ配布、ポスター等を玄関やスタッフルームに事前に貼ったりして告知する。また、ぐーDOGニュースで卒業生等にも告知し参加を促す。

(特記事項)

- ・2年間の修業年限に4回の「校外学習」を設定している。そのいずれからでも、多様な動物業界の様子を体験することができるため、生徒にとってもより多くの知識が学べると思われる。
- ・2年間の修業年限に4回の「レクリエーション」を設定している。1学年と2学年が共に行動をすることで、学年を超えたコミュニケーションが図れる。
- ・ぐーDOG祭は、授業で使わせていただいているモデル犬会員のための感謝祭及び地域貢献である。生徒が主体となり、日ごろの感謝の意味を込め、会員や地域の方に喜んでもらうための行事である。サービス精神やコミュニケーション能力を養うことで人間としての生き方も勉強できるよう、今後も続けていく。

[教員の向上]

評価項目	評価
・教員の研修計画が作成されているか。	3
・専門性や指導能力等の把握や、評価、維持、向上のための内部研修・研究を行っているか。	4
・専門性や指導力などの維持や向上のため、外部研修等へ派遣しているか。	4
・専門性や指導力などの維持向上のための自己啓発への時間的・財政的な支援をしているか。	4
・非常勤講師との定期的な情報共有を図っているか。	4

(課題)

- ・教員一人ひとりが各自のレベルに応じての指導力の強化を図る。
- ・グルーミング及び動物看護に関する明確な考えを持ち、トリマー・動物看護師として意識向上に取り組む。
- ・専門分野以外の勉強会も計画・実施し、教員としての基本的な資質の向上に取り組む。
- ・研修等で得たものを教員間及び非常勤講師に対しても情報を提供し共有する。

(今後の改善方策)

- ・指導力の強化を図るため、内部研修・外部研修を行う。
- ・教員と非常勤講師間でグルーミング及び動物看護に対する考えを統一する。
- ・動物業界以外のいろいろな研修会や勉強会に参加し、教員としての資質の向上を図る。

(特記事項)

- ・実習においては複数の教員が入るため、実習授業中の教員間の意識の統一を図っている。
- ・専門性や技術の向上を図るため、可能な限り最新の設備を整えている。
- ・NAVA 教員対象勉強会へ参加。他校の見学。

[4] 学修成果

評価項目	評価
・生徒の就職に関する目標を達成したか。	4
・生徒の資格取得に対する目標を達成したか。	4
・生徒の退学率の低減に関する目標を達成したか。	3
・生徒の就職結果に関して、社会での活躍および評価を得ているか。	4

(課題)

[就職]

- ・生徒一人ひとりの特性を見極め、進路先の条件等も考慮して、個人個人に合った進路指導を行う。
- ・求人側の雇用条件や労働環境を判断する必要がある。
- ・動物看護師コースは、個々の病院を招き企業説明会を実施する。
- ・進路部・各コース・担任・学生の関連を強め、進路指導する必要がある。
- ・精神的疾患、障害者手帳を持つ生徒に対する進路指導方法。
- ・次年度も就職率目標は100%とする。

[資格取得]

- ・「自校トリマーライセンス」は、ライセンスの意義を理解させ、より上の等級の取得を目指し、日頃から意識し取り組ませる必要がある。
- ・日本動物専門学校協会（NAVA）のトリマーライセンスについては、数名の不合格者があった。
- ・全ての生徒が認定動物看護師試験を受験できるよう、日頃から生徒の様子を確認し、生徒一人ひとりに適した指導を行っていく。

[退学率]

- ・退学者を極力出さないために、担任を中心として教務・入試・進路・事務との情報共有等、連携を強めて対応していく。
- ・入学試験時の面接の対応や体験実習中の行動を通じて人物評価を再検討し対応する。

[社会の評価]

- ・良い評価もあれば、そうでないものもある。早期離職を減らすため企業と生徒のマッチングを考える。
- ・社会人としての基礎を身につけさせる必要がある。

(今後の改善方策)

[就職]

- ・求人側の雇用条件や状況を判断し、その企業に合った生徒を就職斡旋できるよう努力する。
- ・生徒と進路部と担任が常に連携し、生徒にとって最善な就職先へ就ける指導を行う。
- ・企業説明会の参加や、本校での企業説明会を実施する。
- ・就職率100%を目指し、インターンシップや企業見学を促し生徒に合った就職へとつながるよう指導する。
- ・求人票の獲得数を増やすためにも、企業訪問を行い、卒業生との連携も図る。

[資格取得]

- ・生徒に「自校トリマーライセンス」の発行基準、意義、目的を明確に理解させる。また、2年次での取得の為、評価項目の量や評価期間の長さが、生徒の意識低下に繋がりがねないので、気持ちを継続・維持させる指導を行う。（中間の経過報告と開示）
- ・日本動物専門学校協 NAVA トリマーライセンスは、全等級の全員合格を目指す。

[退学率]

- ・退学者を出さないために、教員同士が一つとなり生徒をフォローする。
- ・入試の段階でトリマーおよび動物看護師の仕事の大変さを伝え、それでも受験を目指す生徒を本校へ受け入れる。

[社会の評価]

- ・企業が求める人材を本校で養成できるよう努力する。

(特記事項)

- ・生徒のインターンシップ先を訪問するが、そこでの評価は高く、また、卒業生等の評価も高く、我々教職員は、卒業生の頑張りに感謝する。卒業生の頑張りにより本校に求人が来るのだと思われる。また、卒業生の就職先からも求人をいただき本当にありがたい。

[5] 学生支援

評価項目	評価
・就職・進学指導に関する体制は整備されて、生徒に対して有効に機能しているか。	4
・生徒相談に関する体制は整備され、生徒に対して有効に機能しているか。	3
・生徒に対し、奨学金制度等の経済的支援があるか。	4
・生徒に対し、定期的に健康診断を行っているか。	4
・生徒寮等、生徒の生活環境への支援は行われているか。	3
・保護者との相談・面談を行い、連携を図っているか。	4
・卒業生への支援体制が図られているか。	4

(課題)

- ・奨学金制度を設けているが、生徒の奨学金への認識が低い。
- ・生徒寮等はない。
- ・卒業生の就業状況等をもう少し把握する必要がある。

(今後の改善方策)

- ・生徒の奨学金への知識を高めるため、本校でも説明会を行っている。今後も継続する。
- ・生徒寮等はないが、生徒マンション等の斡旋等は専門業者を通じて行っている。
- ・卒業生の就業状況等が学校ではなかなか把握できないが、企業訪問時や卒業生の友人からの情報によるものが現状である。日頃からの企業訪問を増やしたい。

(特記事項)

- ・就職においては学校内データベースを作成し、生徒が就職実績等を見ながら就職先を探すことができる。また、一般による就職を希望する生徒もいる。すべて生徒が求める職に就けるよう、求人票を渡している。
- ・生徒相談に関しては、本校では担任制を採ることでその体制は確保されている。また、担任以外の教員も生徒と日頃から会話をすることで相談しやすい体制を作っている。
- ・本校では、学内奨学金として「学園ファミリー奨学金制度」、学外奨学金として「日本学生支援機構奨学金」「あしなが奨学金」「交通遺児奨学金」を利用できるよう設定している。
また、教育ローンとして「日本政策金融公庫」「近畿労働金庫公庫（京都府）」「各民間銀行」「新聞奨学生制度」を利用できるよう設定している。
- ・生徒の健康診断を年度初めに実施している。また個人面談をすることで学生の健康管理をしている。
- ・本校では、安心して学校生活を送れるよう「ナジック（株式会社学生情報センター）」「学生会館、食事付・マネージャー夫婦常駐（株式会社共立メンテナンス）に委託している。

- ・常に担任が保護者と連絡を取り対処できる体制を執っている。また、事務処理に関しては事務担当者が保護者と連絡を取り対応している。
- ・卒業生に対しては、就職支援も行い、また卒業生用「セルフトリミングルーム」を設置し、いつでも来校できる体制を整えている。また、ぐーDOG 新聞を作成し配布することで、技術相談会の案内や動物業界の情報及び本校の活動を報せている。

[6] 教育環境

評価項目	評価
・教育上、必要な施設・設備が整備されているか。	4
・校外学習・インターンシップ・海外研修旅行において、十分な教育体制がとられているか。	4
・図書室・図書コーナー等があり、教育上必要な書籍を随時購入しているか。	3
・防災・防犯・非常時に対する体制が整備されているか。	4

(課題)

- ・施設で一部老朽化している所がある。また、空調設備に関しては、早い段階で入れ替えが必要と考える。
- ・1号館、2号館の外壁の点検・補修が必要。
- ・2号館スタッフルーム改修、ドッグラン周辺の整備。
- ・動物看護師コースにおける備品はもとより、トリマーコースの備品充実を経費削減に努めつつ、可能な限り行う。
- ・海外研修旅行において、研修内容等も検討をすると共に、国内研修旅行も選択肢に入れる。

(今後の改善方策)

- ・空調設備の入れ替えを行う。
- ・施設の老朽化は、随時修理を検討し、できるものから直していく。電気設備等も修理をしていく。
- ・外壁の異常が無いか、こまめに注意する。
- ・消防設備点検、建設・設備定期点検を行う。
- ・備品に関して十分に検討し経費削減を目指す。
- ・図書室の環境を整える。
- ・海外研修旅行において、海外の動物業界が日本と比べてどのように違うか等も観察できるよう、最新の医療現場の見学等もできるよう配慮する。

(特記事項)

- ・動物看護師コースの最新設備・器機においては、本校の獣医師と連携を取りながら設置している。
- ・毎年、必要な参考図書・関連図書等の選択を行い、最新の情報を揃えるため、随時不足分を補っている。また、動物看護師コースの書籍は十分ではないので、今年も増やしていく。
- ・防災では防火責任者を配置、消火器等を完備し点検維持している。定期的に避難訓練も実施している。防犯において、「テレビカメラ」と「防犯センサー」を設置し、2号館防犯カメラの映像を1号館事務室モニターで可視化している。
- ・非常時等に備え、1号館、2号館にそれぞれ「AED」を設置し、学生および地域住民の非常対応を確保している。

[7] 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・生徒募集活動は適正に行われているか。	4
・教育の成果、資格取得の実績、就職実績等が、生徒募集に貢献できたか。	4
・入学選考は、適正かつ公平な基準に則り、執り行われているか。	4
・学納金は妥当なものとなっているか。	4

(課題)

- ・体験入学会・学校見学会等の内容の改善及び出願率アップのための方法を検討する。
- ・奈良、大阪の京阪・近鉄沿線の誘導に更に力を入れる。
- ・AO入試を重視し、高校2年生の10月頃から早めの動きだしを実現する。

(今後の改善方策)

- ・体験入学会は、コース別に学校説明を行い、個別対応を強化する。AO入試説明会、AO二次審査対策、保護者説明会、保護者個別相談会などを実施し参加者の目的に合わせた内容にする。
- ・トリマーコースは「W資格+1」のライセンス取得、動物看護師コースは合格率と平均点をアピールする。
- ・体験入学会の日程や内容の見直しをはかる。
- ・奈良・大阪の京阪・近鉄沿線は高校訪問を強化する。
- ・本校在校生の近況を出身校に報告。生徒の写真・コメントの掲示を依頼し、本校での将来像を明確化させる。
- ・スマホサイトやSNSを利用し、情報の発信を行う。
- ・アドミッションポリシーを大切にし、本人の意志が強いことを確認した上での選考を実施する。

(特記事項)

- ・生徒募集活動は、適正に行っている。また、担任制及び少人数制を取り入れ、教職員一同が一丸となり親身なサポートを行っている。
- ・入学選考にあたり、AO入試・一般入試を実施し、入学基準に則り執行している。
- ・学納金は必要最小限にとどめ、生徒に負担がかからないよう、学内・学外奨学金制度、教育ローンにも対応し、安心して学業に専念できる体制を整えている。

[8] 財務

評価項目	評価
・中長期的に財務基盤は安定しているか。	3
・予算は収支計画に従って適正に執行され、定期的に確認されているか。	4
・会計監査（内部・外部）が適正に行われているか。	4
・財務情報公開はできているか。	4

(課題)

- ・財務情報をホームページで公開する。

(今後の改善方策)

- ・財務状況の更なる安定を図る。

(特記事項)

- ・現時点においては、収支のバランスが執れ、財務基盤も安定している。
- ・財務状況は、予算計画に基づき、適正に執行されている。
- ・財務監査においては、学園監事及び監査法人により厳正かつ適正に行われている。

[9] 法令等の遵守

評価項目	評価
・法令、専修学校設置基準等が遵守され、適正な学校運営を行っているか。	4
・個人情報保護法により、その対策がとられているか。	4
・ハラスメントに関する規程を設け、学校として生活しやすい場の提供をしているか。	4
・いじめ問題に対して、その対策が取られているか。	4
・体罰に対して、その対策が取られているか。	4

(課題)

- ・学園の勤務改善検討委員会・情報管理委員会・セクシュアルハラスメント防止対策委員会を定期的実施し、対応している。

(今後の改善方策)

- ・「個人情報を校外に絶対に持ち出さない。」を徹底している。
- ・ハラスメントに関しては、年度末にアンケートを実施し、学校の現状を学園が管理している。
- ・前期末及び後期末で実施している授業及び教員アンケートにおいて、いじめや体罰の内容を追加し、もしも何かが起こった時にすぐに対応が取れるように準備をしている。

(特記事項)

- ・関係法令を遵守し、適正な学校運営を行っている。
- ・学校が保有する個人情報の保護について、規定を定めて管理している。
- ・セクシュアルハラスメント防止対策委員会を設置。組織化して、生徒の学習環境及び教職員の就業環境を整えている。
- ・常に生徒の異常を把握し、即時対応できるよう、教職員一丸となって生徒の情報を共有している。

[10] 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・ペットショップ・動物病院・動物関連施設等での職場実習を行っているか。	4
・キャリア教育・ビジネス教育等を行っているか。	3
・コミュニケーション能力向上に向けた取り組みを行っているか。	3
・他の高等教育機関等との連携講座を行っているか。	4
・企業・地域・行政との連携を図っているか。	4
・目標・計画に基づく社会的活動（ボランティア活動等）を実施しているか。	3

(課題)

- ・動物関連の外部企業との連携を図っているが、それを更に強化する。
- ・生徒が自らの可能性を高め、挑戦し、活躍できるよう、また自立して生計が立てられるよう指導していく。

(今後の改善方策)

- ・動物関連業者との連携を図っているが、企業や事業所を訪問してその連携をよりいっそう広く大きなものにしていくようにする。
- ・今以上の強化に向け、勉強会の場を設け、企業や業界担当者との親睦を図る。
- ・生徒が社会で柔軟に対応していけるよう、生徒の弱点を見抜き人間的に成長させるため、学問以外の生活面での指導にも力を入れる。

(特記事項)

- ・将来、社会的・職業的に自立し、社会の中での自分の役割を見つけ、その責任を果たすことができる人間に育てるためのカリキュラムを編成している。
- ・本校の学園訓に則り、両コースにおいて知識や能力や技術だけを身に付けるのではなく、グループ作業を取り入れることで、互助協力して完成させる授業を展開している。
- ・京都廣学館高等学校の協力を得て、本校の動物に関する授業を公開している。
- ・生徒のインターンシップ・見学を通し、就職・アルバイトの求人を得、本校に不足するものを企業で学び、それをカリキュラムに反映することで、本校の教育を更に向上させることを目指し、成果をあげてきている。
- ・命の大切さと世の中が人間と動物の共存で成り立っている現実を理解し、人間が生きていくための知識及び方法を経験させ、生徒自身が自分の将来をも考えられる教育を行っている。
- ・獣医師会主催の動物イベント等に参加し、来場者の方々にたいして啓蒙活動のお手伝いを行っている。

以上

京都動物専門学校

平成 29 年度 自己点検・評価委員会

委員長 木原 茂弘 (校長)

委員 大塚 浩也 (副校長)

木下 博美 (事務長)

寺岡 朋美 (教務部長)



平成 29 年度 事業報告書

I 学校の概要

京都動物専門学校

〒612-0068 京都市伏見区桃山福島太夫西町6番地

1. 学校の概要

昭和 50. 3. 31	学校法人南京都学園 認可
平成 8. 11. 15	京都デザイン・ビジネスカレッジ 工業専門課程 商業実務専門課程 服飾・家政専門課程 設置認可
平成 14. 4. 1	京都デザイン・ビジネスカレッジ を 京都情報ビジネス住環境専門学校 に校名変更
平成 21. 4. 1	京都情報ビジネス住環境専門学校 を 京都動物専門学校 に校名変更
平成 26. 3. 31	職業実践専門課程 文部科学大臣認定

2. 教育理念

人間の能力は生まれつきのものではなく

その人の努力によって開発され、無限に伸ばされる

(昭和28年3月18日)

3. 学園訓

本学園は、学生・生徒の守るべき学園訓を愛・信・敬とした。

愛・信・敬

(昭和62年4月)

4. 課程・学科の入学定員、学生・生徒数の状況

平成29年4月当初

学 校 名	課 程	学 科 名	学則定員	1 年	2 年	合 計
京都動物専門学校	商業実務 専門課程	ペットビ ジ ネス学科	160	57	40	97

5. 教職員

	専任 教 員	専任 職 員	小 計	非常勤 教 職 員	合 計
京 都 動 物 専 門 学 校	8	4	12	18	30

II 事業の概要

1. 京都動物専門学校

1) 平成 29 年度の事業の概要

(1) 概 要

ペットビジネス学科

建学の精神に基づいた教育の具現化を図る学校創りをするため、SKILL・LOVE・BUSINESS のスローガンのもと、アドミッションポリシー（入学受入方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）、ディプロマポリシー（進級・卒業認定、専門士授与に関する方針）を着実に進め、選ばれる学校となれるよう業務を遂行した。

①職業実践専門課程への対応

職業実践専門課程の認定を受け約 4 年半が経過した。平成 29 年度においては、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を 2 回実施した。

1 回目は平成 29 年 9 月 11 日に実施。

主な議案は、

- 1) 「平成 28 年度 自己点検評価報告書に基づく、今後の産学連携の在り方及び内容」について

2) 「企業・業界の要望する人材及び職業教育」「本校教育課程の内容及び養成する人物像」について

2 回目は平成 30 年 3 月 28 日に実施。

主な議案は、

1) 「平成 29 年度 自己点検『課題と対策』」について

2) 「本校の中長期計画」について

平成 29 年 9 月 30 日をもって全委員（学校関係者評価委員・教育課程編成委員）の任期が満了となった。学校関係者評価委員は全委員が継続し就任（増減なし）、教育課程編成委員は 2 名が終了となり、新たに 2 名が就任した。全委員の任期は、平成 29 年 10 月 1 日～平成 31 年 9 月 30 日となる。

『終了：岩永健〈エル動物病院院長〉、山本美貴子〈ミキコドッグスクール代表〉』

『就任：大山守〈（一社）全国ペット協会専務理事〉、吉田浩〈アンアミ代表〉』

動物看護師コースは「31 年度導入の新カリキュラム」、トリマーコースは「本年度から実施している、NAVVA トリマーライセンス及び P S I A についての進捗状況」を報告し、委員から意見を伺い総合理解と課題を共有した。中長期計画については、専門職短期大学への取り組みとして「移行」から「動向観察（情報収集）し申請可否決定」に変更を説明し、意見交換を行った。施設設備の改修・整備などの報告を行った。

②動物看護師コースの充実

コースの教育内容としては、動物病院での避妊手術実習、連携施設内研修などを行い、充実したものであった。今年度は、認定動物看護師試験対策を 9 日間で 27 コマ実施。認定動物看護師試験は 12 名受験（合格 11 名、不合格 1 名）という結果であった。3 年連続合格率 100%には至らなかった。学校別平均点は全国 7 位（76 校 内：大学 8 校）という結果であったが、健闘した。推移としては、1 位→6 位→7 位となっている。試験対策を実施し、放課後の個人指導などもあり、1 名の不合格者はあったが、良い結果を残した。

退学者対策は課題である。

③トリマーコースの充実

本校トリマーライセンスを導入して 3 度目のライセンス交付。上級取得者が多く、無級者もなかった。

また、今年度から NAVVA トリマーライセンスを導入し、生徒は目

標を明確に持つことができた。1級合格者は（一社）ペットスタイリスト国際協会P S I Aブロンズを同時に取得した。N A V A主催の全国トリミングコンテストに生徒2名が出場した。入賞は逃したが、生徒と教員共に大きな刺激となった。しかし、出場モデル犬の問題は残った。

昨年同様、会員モデル犬の予約問題（期間が長い）の解決は難しい。N A V Aトリマーライセンスの導入にあたって、ブリーダー犬を使用する頻度が増し、モデル犬の調達及び調整は課題であり解決しなければならない。

（２） 学校行事

月	行事	月	行事
4	講師会・入学式・健康診断 オリエンテーション 春のレクリエーション	10	秋のレクリエーション FCI インターナショナルドッグショー
		11	ぐーDOG祭 家庭動物管理士試験（トリマー） NAVA トリマーライセンス2級試験 愛玩動物飼養管理士試験
		12	海外研修旅行（2年任意） NAVA トリマーライセンス1級試験 動物愛護社会化検定基礎級試験（トリマー1年）
5	校外学習 ・ 避難訓練 ZPK 主催 合同企業説明会（トリマー2年）	1	NAVA トリマーライセンス3級試験 校外学習
6	連携施設内研修（看護2年） ビジネス実務マナー検定（トリマー2年）	2	学生トリミング競技会 簿記検定 販売士検定 後期試験（追・再試験） 全国トリミングコンテスト （ナゴヤドーム）
7	W J V F 第8回大会参加（看護1・2年） インターンシップ（トリマー2年） 販売士検定3級		
8	前期試験 動物愛護社会化検定専門級試験（トリマー2年） 愛玩動物飼養管理士講習会 損害保険募集人一般試験（2年）		
9	連携施設内研修（看護2年） 家庭動物管理士受験講座（トリマー） 京専各体育大会	3	インターンシップ（トリマー1年） トリマーライセンス等級判定 認定動物看護師試験 動物病院一日見学（看護1年） 卒業式

2) 平成 29 年度の主な事業の目標、進捗状況

(1) 教育内容

①教育内容の充実

- ・ 両コース共にインターンシップ先や外部実習先、研修先の確保は出来た。
- ・ 2 年生は海外研修でオーストラリア・シドニーを訪れ、現地のペットサロン訪問と動物保護施設の特別プログラムに参加し貴重な経験と勉強ができ、無事に終わることが出来た。
- ・ ぐーDOG 祭の目的は地域住民やモデル犬会員等への感謝の気持ちを伝えるものとして、学生に認識させ行った。まだまだ、理想的な形にはなっていないが、内容や教員・生徒の対応などをより良いものにしていく努力をし、学校のイメージアップと地域社会への貢献にも繋げていく。
- ・ 学生トリミング競技会を本年度も 1 号館 3 階で実施し、例年どおり張り詰めた空気の中、真剣な面持ちで参加者は腕を競った。また、優勝・準優勝の 2 名が（一社）日本動物専門学校協会（NAVVA）主催 全国トリミングコンテスト（ナゴヤドーム）に出場した。生徒のモチベーションは大きく上がり、目標に向かって頑張っていた。見学した 1 年生にとっても、先輩の姿に刺激を受け、明確な目標を持つ機会となった。
- ・ 本年度から（一社）日本動物専門学校協会（NAVVA）のトリマーライセンスの導入を実施した。外部の審査員による試験ということで、生徒達はこれまでにない緊張感が感じられたが、試験後はそれ以上の充実感に満たされていた。このような経験を積むことは大切なことであり、また目標も明確になる為、生徒各々の成長には必要であると感じた。教員も成長できる。
- ・ 外部講師（舞鶴動物医療センター院長・NAVVA）による特別授業を実施。
- ・ 動物看護師コースにおいては、本年度の 1 年生から新教育課程実施。
- ・ 生徒による授業アンケートを全科目に亘り、年 2 回実施。
- ・ 薬物乱用ポスターの掲示及び京都府薬物乱用防止指導員研修会に参加。
- ・ スタッフルームの充実に関しては、大型モニターを設置した。まだ不十分である。

②教育支援の強化

- ・担任制の充実のため生徒による担任評価アンケートを、授業力を高めるために生徒による授業評価を年2回実施した。
- ・生徒と担任の接触回数に重点を置き、個別面談を定期的にも実施。
- ・教職員の外部研修には、積極的に参加した。

③進路指導の充実

- ・インターンシップ研修者 1年：32名 2年：37名
- ・就職、進学決定者 37名（希望者 37名）
- ・個別呼び出し面談で、履歴書、面接指導を実施。
- ・校内での企業説明会を実施。
- ・合同企業説明会への参加。
- ・企業への訪問。

④高専連携

- ・今年度も京都廣学館高等学校ジェネラルコース専門学校系列の動物分野の授業を担当した。スケジュール及び講師調整・授業内容等において工夫が必要である。
- ・京都廣学館高等学校3年生保護者対象説明会に参加。
- ・京都廣学館高等学校の生徒を対象としたオープンスクールを実施。

⑤資格取得状況

- ・トリマーライセンス（S級：9名、A級：6名、B級：6名、C級：4名）
- ・（一社）日本動物専門学校協会 NAV Aトリマーライセンス
（1級：22名、2級：22名、3級：33名 合格）
- ・（一社）ペットスタイリスト国際協会 P S I Aブロンズ（20名認定）
- ・動物看護師統一認定試験（11名合格）
- ・愛玩動物飼養管理士（1級：1名、2級：42名 合格）
- ・家庭動物管理士（3級：46名 合格）
- ・動物愛護社会化検定（基礎：31名、専門：9名 合格）
- ・販売士検定（3級：22名 合格）
- ・ビジネス実務マナー検定（2級：6名 合格）
- ・日商簿記検定（3級：2名 合格）
- ・Microsoft Office Specialist Word2013（32名 合格）
- ・Microsoft Office Specialist Excel2013（27名 合格）
- ・損害保険募集人 一般試験（74名合格）

（2）施設、設備の整備

- ①ドッグランの整備を実施。
- ②1号館空調設備更新工事を計画。
- ③義務づけられている建物・設備の定期点検を実施し、交換等の改善を行った。
- ④2号館防犯カメラの映像を1号館事務所モニターで可視化した。
- ⑤教室の蛍光灯に経年劣化による不具合が多数生じているので、改善を検討、実施を計画した。

(3) 学生募集

①募集活動

入学者目標を80名と定め、下記のような募集活動を行った。

- ・個別対応の強化。
体験入学会では、希望コース別に説明を行い個別相談会への誘導を積極的に実施した。入試説明会においても、学年別を実施するなど個別対応を強化した。また、体験入学会告知DMの内容を対象者別に作成し、発送時には送付状を対象者別に同封した。資料請求時も同様に行った。
- ・体験入学会、学校見学などへの動員目標（180名）並びに動員からの出願率目標（43%）を設定し、DM、進学情報誌、ホームページ等での広報活動の展開を図った。結果、動員数113名、動員からの出願率47.8%となった。動員数は目標には達しなかったが、出願率は達成することができた。28年度の動員数127名、動員からの出願率38.6%を比較して、動員数増加の対策を強化していきたい。更に強化していきたい。
- ・法人企画室の協力を得て、高校訪問を強化した。就職が内定した生徒の写真・コメントをプリントし、出身高校へ生徒の様子などの報告を行った。
- ・マスコミへのプレスリリースを中心としたパブリシティなど、PR戦略を展開した。
- ・動物関連の各種イベントへ参加し、知名度の向上を図った。
- ・スペシャル体験（オープンキャンパス）を開催し、動員の増加対策を実施し、まずまずの動員数であった。今後は回数及び内容の工夫・PR戦略を充実させたい。

②入試制度改革

- ・AO入試での受験生を増加させる方策として、本年度生から授業料の減額を5万円から10万円に変更。結果として、出願のAO入試割合が89.5%と非常に高い割合となった。AO入試で募集は決定する感じである。AO入試以外の出願が極端に減少した。

- ・京都動物専門学校**の強みと特徴を、トリマーコースは「W資格+1」＝「N A V A認定トリマーライセンス、京都動物トリマーライセンス+P S I Aペットスタイリスト」とし、動物看護師コースは「動物看護師統一認定試験受験可能校、合格率100%、学校別平均点全国1位」とし明確に設定し広報活動を行った。トリマーコースに関しては、まだ結果が表れていないが、動物看護師コースの合格率・全国1位の強みは、大きな反響とともに結果としてもあらわれた。**
- ・動物看護師コースも4年目となったが、定着を図る。
- ・昨年度同様、滋賀県からの出願は減少傾向にある（H27年度生13名/H28年度生9名/H29年度生11名/H30年度生10名）。また、奈良・京都北部エリアの減少も顕著にあらわれた。30年度も、京阪沿線に力を入れ、これらの結果・情報を分析し、今後も募集エリアを再考した広報活動を行う必要がある。

（4）自己点検評価の実施

評価委員会が年度末3月に平成29年度の総括を兼ねた報告書を作成。

Ⅲ 財務の状況

（1）資金収支計算書

平成29年4月 1日から

平成 30 年 3 月 31 日まで

京都動物専門学校

単位：千円

収入の部			
科目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	105,450	104,500	950
手数料収入	1,250	1,234	16
寄付金収入	500	320	180
補助金収入	1,850	1,852	△ 2
雑収入	345	557	△ 212
借入金等収入	22,000	22,000	0
前受金等収入	35,000	35,325	△ 325
その他の収入	△ 27,667	△ 1,246	△ 26,421
収入の部合計	138,728	164,542	932
支出の部			
人件費支出	81,444	80,002	1,442
教育研究経費支出	25,771	22,899	2,872
管理経費支出	22,316	19,887	2,429
借入金等利息支出	1,064	1,064	0
借入金等返済支出	16,126	16,126	0
施設関係支出	1,100	1,040	60
設備関係支出	2,250	0	2,250
その他の支出	△ 2,143	8,188	△ 10,331
支出の部合計	147,928	149,206	△ 1,278

(2) 事業活動収支計算書

平成 29 年 4 月 1 日から

平成 30 年 3 月 31 日まで

京都動物専門学校

1. 教育活動収支

単位：千円

	予 算	決 算	差 異

学生生徒等納付金	105,450	104,500	950
手数料	1,250	1,234	16
寄付金	500	320	180
補助金	1,850	1,852	△ 2
雑収入	△ 4,743	△ 5,230	487
教育活動収入合計	104,307	102,676	1,631
人件費	81,444	80,002	1,442
教育研究経費	36,951	33,297	3,654
管理経費	22,516	19,971	2,545
教育活動支出合計	140,911	133,270	7,641
教育活動収支差額	△ 36,604	△ 30,594	△ 6,010

2.教育活動外収支

受取利息・配当金	1	1	0
借入金等利息	1,064	1,064	0
教育活動外収支差額	△ 1,063	△ 1,063	0

3.経常収支差額(1+2)

経常収支差額	△ 37,667	△ 31,657	△ 6,010
--------	----------	----------	---------

4.特別収支差額

特別収入	0	161	△ 161
特別支出	0	0	0
特別収支差額	0	161	△ 161

5.事業活動収支(3+4)

基本金組入前当年度収支差額	△ 37,667	△ 31,496	△ 6,171
基本金組入額合計	△ 3,350	0	△ 3,350
当年度収支差額	△ 41,017	△ 31,496	△ 9,521

貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日

学校法人南京都学園

単位：千円

資産の部	
科目	本年度末

固定資産	7,147,208
有形固定資産	7,061,700
特定資産	79,000
その他の固定資産	6,508
流動資産	182,457
資産の部合計	7,329,665
負債の部	
科目	本年度末
固定負債	483,179
流動負債	326,453
負債の部合計	809,632
純資産の部	
科目	本年度末
基本金	10,112,798
繰越収支差額	△ 3,592,765
純資産の部合計	6,520,033
負債及び純資産の部合計	7,329,665

財 産 目 録

学校法人南京都学園

単位：千円

科 目	平成 29 年度末
1 資産額	
1.基本財産	

(1)土地		
校地	69,725.35 m ²	5,768,980
(2)建物		
校舎	17,536.77 m ²	1,100,722
(3)構築物		67,416
(4)教育用機器備品	6,292 点	65,388
(5)その他の機器備品	648 点	10,417
(6)図書	28,019 冊	44,531
(7)車輛		4,192
(8)退職給与引当特定資産		79,000
(9)その他の固定資産		6,508

2.運用財産 230,951

合 計 7,329,665

2 負債額

1.固定負債 483,179

2.流動負債 326,453

合 計 809,632